

# やったぞ！再度の5割動員達成

## 日刊 動労千葉

84. 10. 12

No. 1764

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）  
（鉄電）二九三五六（公衆）〇四七二（22）七二〇七

### 空前の二万四千名「二期阻止」へ大進撃を宣言 動労千葉六四〇名の隊列で堂々と登場 10.10速報

ついに動労千葉は、「10・10三里塚」に再度の五割動員＝勤務以外のほぼ全員の組合員の決起という快挙をなした。しかも、「3・25」を上まわる六四〇名の組合員が、全員ナツパ服にゼッケンで身を固め、青年部白ヘル二五〇名を先頭に年輩者も全員ハチマキをしめて、すでにギッシリと埋め尽くされていた全国総決起集会会場のまっ只中に天をつくかけ声とシュプレヒコールをとどろかせながら堂々と入場したのだ。

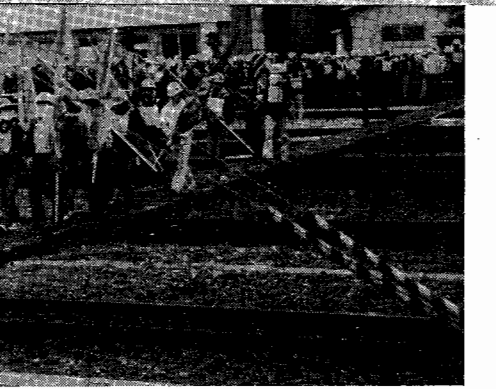
会場は、総立ちで歓呼の叫びと拍手の嵐がしばしなりやまなかった。この一瞬、10・10の大勝利は決した。いつでも、何でも、やればできる。わが動労千葉の「三里塚二期阻止」国鉄クビ切り『三本柱』粉碎＝分割・民営化阻止＝今秋決戦勝利への執念をかけた総決起、わが組織力・戦闘力の大勝利だ。

大会以降一カ月という短期間、しかも首切り「三本柱」攻撃をはじめとする厳しい状況の中でのこの快挙は、全組合員の昼夜をわかつたぬ奮闘の成果として、歓びをもって確認し合おうではないか。そして、一万四千名というかつてない大結集、とりわけ、動労千葉を先頭とする、国労共闘、全通共闘、教組、自治労はじめ一五〇〇名の労組連隊列の創出は、三里塚闘争が労働者人民の未来をたくす正義の闘いであることをあらためて証明してみせたのだ。

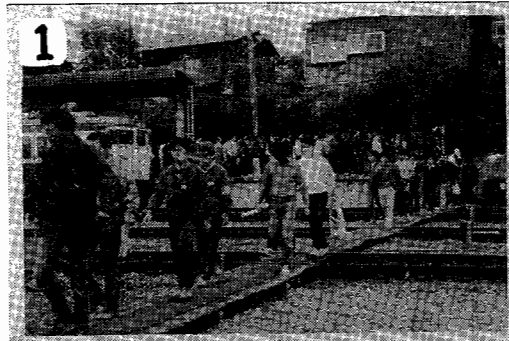
この力を糧に、今秋から来年に至る首切り「三本柱」と「60・3ダイ改」合理化を中心とする国鉄労働運動解体攻撃をうち破る決戦に総決起しよう。



②成田運輸区庁舎前で決起集会。基調報告は水野副委員長



③さあ出発だ、40名の隊列が進む



①10時30分着の快挙が着く。ホームは動員参加者で埋まりました

#### 動労千葉先頭に労組連一五〇〇名の隊列

満を持して迎えた10月10日、成田運輸区庁舎前は続々と結集する組合員で埋めつくされ、この時点で10・10の大勝利は決定した。動労千葉の断固たる独自集会をかちとり、直ちにすし詰めのバス四台で三里塚第一公園へとむかった。

9月25日の用水着工以降、連日数千名で現地にはりつけにされている権力は、この日も八千五百名の機動隊を総動員して空港の内外にはりつけ警備をせざるを得なかった。意気上がるわれわれのバス四台は、この疲れきった様子もありありの機動隊の検問の壁をつぎつぎとつきぬけて十一時半、集会場わきの芝生に到着。

すでに到着していた労組連の仲間と合流して、昼食も兼ねて合同の前段総決起集会が始まった。動労千葉の布施書記長、全通東京空港支部、二〇〇名で組織参加した広島県教組青年部、全統一労組星川分会、最後に二五〇名のヘル部隊で登場した国労共闘代表が決意表明を行い、「団結ガンバロー！」でしめくくった。

十二時二〇分、さあ、いよいよ全国総決起集会会場への入場だ。（以下、第二報につづく）

# 労働学校 第七回講座に集まるろう 十月十三日(土)

5月に開校した動労千葉労働学校も回を重ねること今回で第七回目を迎えました。全支部より毎回五、六〇名、それに友誼他単産の仲間の参加も拡がり、講師陣、講義内容ともに高い標価と内外の注目を集めつつあります。「一人ひとりが活動家に」を合言葉に、どんどん参加して下さい。

第七回講座は、後期のスタートとして次の要綱で行います。

日時 十月十三日(土) 十三時～十七時  
 場所 動力車会館(千葉市要町二ノ八)  
 テーマ 「現代国家と世界革命―戦争と革命の時代―」  
 講師 東洋大学教授 竹内良夫氏

## 1万人超える動員

### 平穏ななかにも緊迫感

成田空港二期工事の前哨戦ともいえる成田用水ほ場整備事業をめぐる現地攻防が山武郡芝山町菱田地区で続くなか、三里塚・芝山連合空港反対同盟の北原純治事務局長は「日午後三時三十分から成田市三里塚第一公園で空港反対全国集会を開いた。集会には北原派の反対派農民や支援の中核的な主催者側発表で一万三千八百人(同日午後一時現在、県警調べ三千七百九十人)が参加。二期工事の着工阻止を叫んだ。集会はここ数年來、最高の盛り上がりを見せ、県警では八千五百人の機動隊員を動員、警戒を強めた。

## 3・24結集を呼びかけ

二期着工決定弾劾―今秋 砕・一掃 10・10全国総決起  
 着工実力阻止、収用法弾劾  
 成田用水実力阻止、脱法派粉  
 集会は、午前中の前段集会  
 の熱気に包まれたなか、予定  
 より三十五分遅れてスタート  
 した。  
 八月に運輸省が来年度予算

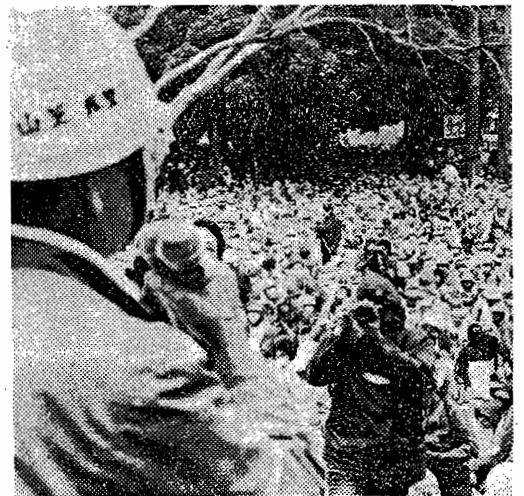
# 「二期阻止」呼び熱気

## 空港反対派 北原

【シグザケデモで氣勢を上げる空港反対派―成田市・三里塚十字路で】



【10・10全国総決起集会に、大動員された参加者を前に基調報告する北原純治事務局長―成田市・三里塚第一公園】



の概要要求に空港二期工事施設整備費を初めて盛り込み、しかも、反対派が二期工事の突破口」と決めてつけている成田用水菱田工区の工事九月二十五日から始まったことから、同派は危機感を強めており、集会は予想を上回る盛り上がりを見せ、一万人を超える参加者を動員、会場はヘルメット姿の学生まで埋まった。

青年、婦人行動隊員の司会で始まった集会では、二期工事敷地内に住む反対同盟役員の高村良助さんが開会宣言。「私たちは十九年間、闘い抜いている。二期着工に向けて整備予算が組まれたからといって二期工事ができるものではない。二期工事を粉砕するどころか、廃絶につながる」と口火を切った。

続いて、主催者側を代表して小川嘉吉さんが「今、追い詰められているのは、政府・空海公団だ」と反対派の結集を強調。この後、北原純治事務局長は「成田用水整備のため、政府は機動隊員を連日六千人動員している。この経費は十日間で六億円はかかる。ここまでして成田用水事業を進めているなら、毎週報告。成田用水を粉砕することか二期工事を阻止することだ」ということを確認しなければならぬ」と二期着工阻止を訴え、参加者に来年三月二十四日の全国集会への結集を呼びかけた。

さらに集会では、動労千葉や関西新空港反対住民代表らの決意表明が続き、政府や空港公団からの話し合い路線を拒否するなど十五点のローガンを採択。午後四時三十分すぎからデモ行進に移った。デモは会場の三里塚第一公園から番神三差路までの約四キロにわたって行われたが、特に混乱はなかった。

十四日には反対同盟成田一代表派が空港近くで集会を開く。